

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

(令和3年12月3日 午前9時45分)

●議長(佐藤武雄) おはようございます。ただ今の出席議員は10名であります。定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。なお、青柳議員から、午後2時から欠席届けが提出されております。また、佐藤博一議員から、1時間の遅参、また午後3時から欠席届けが提出されております。

本日の議事日程は、お手元に配布のとおりであります。

日程第1、通告による一般質問を行います。質問時間は最大1時間を目途に質問者、答弁者は進行にご協力をお願いいたします。また、答弁者及び質問者の都合により、質問の順序を変更することがありますので、あらかじめご承知願います。なお、質問者と質問者との間に10分程度の休憩を取ることといたします。また、通告1、湊喜一議員を、午後1時からに変更をいたしました。

通告の2、北村富貴夫議員。

- 1 信越病院建設の進捗状況について
- 2 森林の管理と保全について
- 3 登山道の整備について
- 4 引きこもり対策について

議席番号1番、北村富貴夫議員。

◆1番(北村富貴夫) おはようございます。議席番号1番、北村富貴夫でございます。トップバッターとなりましたので、どうぞよろしく願いいたします。

コロナ対策、特にオミクロン株が、今後どうなるかわからないところでございますけれども、ブースター接種等は準備をしっかりと行い、進めていただければと思います。通告に沿いまして、質問をさせていただきます。内容によっては、質問が前後いたしますので、よろしくお願いいたします。

信越病院の建設の進捗状況について、6月、9月議会において、質問をさせていただきましたが、その後の進捗状況等について、質問をさせていただきます。最初に、危機管理について、ちょっとした体験したことを、お話させていただきます。過去に、ある病院で入院した時のことです。火災警報が病院内で鳴り響きました。私はちょうど、看護師さんに押しもらい、車いすで移動しているその時に、警報音を聞きました。私は患者の立場で、車いすですから、逃げることもままならない、どうしよう、どうなるのか、私は思わず、患者はこういう時、何もできないなど、つぶやきました。その時です。私の方にそっと手を置いて、車いすを押してくれている看護師さんが、私に向かって、私が付いているから大丈夫ですよ、と言ってくださいました。ちょっとしたことかもしれませんが、なんと頼りになったことか。とても心強く感じました。幸い警報音は誤作動だったのですが、その言葉や行動にとっても感動しました。看護師の役割は、ご

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

存じのとおり、医師の補助と患者さんのケアなどです。患者さんの様子や状態を把握し、異変を察知する重要な役割を担っています。健康増進や疾病予防、健康回復、苦痛の緩和など、患者にとって最も身近にいる存在です。患者さんに寄り添い、患者さんのために、危機管理とは何かを考えさせられ、患者は何もできないということ、肌で感じました。地域の健康と暮らしを支え、身近で信頼され、愛される病院と理念で謳われた病院について基本構想ができ、地域医療にとって重要な役割を担っています。信越病院の職員は、現在も日々、医療に従事し、大変ご苦労もあると思います。これから、新病院の建設に向かうわけですが、改めて、避難、災害の訓練等、危機管理体制について、ハード面だけではなく、ソフト面も考えていただければと思います。そこで、町長のキャッチフレーズの中に、みんなで作るふるさと信濃町と言っています。みんなで作る、協同の町づくりということは、病院関連についても、また、周辺道路についても、住民と一緒に、住民目線でいろいろと考えていくと思いますが、後ほど質問します。周辺道路のこともそうなんですけれども、色々と考えていくと思いますが、町長はいかがでしょう。その辺について最初にお伺いします。

●議長(佐藤武雄) 横川町長。

■町長(横川正知) おはようございます。北村富貴夫議員さん、大変貴重なご質問、そしてまた、ご自身の入院体験に踏まえて、重要なご指摘を頂戴いたしました。前段で、ご質問と言いますか、お話がありました病院の危機管理の関係については、当然、そういうことを有事の際の想定もしっかりとしながら、対応をしていかなきゃいけないというようなことで、法的にも定められております避難訓練等々も実施をされているところでございます。要は、そういったハード的な部分も含めて、ご指摘のようにやっぱり医療というものは、ある面では、いわゆる人術ではないのですが、人と人とのふれあいと言いますか、寄り添った対応ということを言われましたけれども、極めて大事な分野でもあろうかというふうに思っております。引き続いて、そんなことも含めてしっかりと、現場対応をしまっているように進めてまいりたいというふうに思います。病院改築、新築に向けての総合的な今の状況、若干、触れさせていただきました、細部については、所管の事務長等からお答えをさせていただきたいと思っております。ご案内のように今年、町としても本当に大事業でございまして、いよいよスタートし始めているわけでございます。ご案内のように今、予算的な措置もお認めをいただきながら、今年度については、いわゆる病院の基本設計を進めている段階でございます。この基本設計を進めるにあたりまして、今北村議員からご指摘がありましたように、周辺住民の皆さん方、あるいは、敷地内にある構造物、あるいは樹木等々の関係につきましても、やはり学校という今までの長い歴史の中で、存在してきているそれぞれの構築物等でございます。その辺についても、経過をしっかりと確認しながら、対応について今、検討を深めて、方向性を導き出していきたいということで今、進めているということでございます。今回また、今議会中にも、今年度進めている病院の経過、事業の経過について全協で、経過説明と言いますか、報告をさせていただきたいという予定もしておりますので、ぜひまた、今後と

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

もよろしくお願ひしたいというふうに思います。以上でございます。

●議長(佐藤武雄) 北村富貴夫議員。

◆1番(北村富貴夫) 町長の方から、人と人のつながりということで、これからも検討を深めていらっしゃるということでございます。そこで、危機管理という点で質問を続けさせていただきます。現在、災害時の患者さんへの訓練、それから、これから移転をしていくわけですけれども、そういう移転に関するシミュレーション、そういうようなものについてはどのような状況になっているのでしょうか。その辺について、質問をさせていただきます。事務長の方から、お願ひいたします。

●議長(佐藤武雄) 丸山病院事務長。

■病院事務長(丸山茂幸) ただ今ご質問をいただきました院内の危機管理につきまして、初めに現状をお伝え申し上げます。防災対策として、病院におきましては、事業所として消防防災計画を、鳥居川消防署信濃町分署に提出し、消防署の指導を受けながら、避難訓練等を事業所として対応をしてきているところでございます。災害が発生した場合につきましても、町で、地域防災計画に病院の位置付けがございまして、災害対策本部が設置した場合は、応急医療体制の位置付けということで、病院職員による救護班を編成するというところで、医療、救護活動をしていくこととなります。通常もそうなのですが、災害時におきましても、長野の広域の地域医療圏と申しますが、その中でも、初期救急医療機関ということで、初期の救急患者の受け入れ、その後、患者さんの状態によって、災害拠点病院としている長野市等の方への搬送ということの、中間的な役割を担っていることになってございます。新しい病院になりましても、ここの部分につきましては継続していく事としてございますが、また新たな病院の現在の設計段階におきましては、危機管理体制として、災害などの緊急事態に際して、病院の事業が継続していくことを必要としている中で、事業継続計画というものの考えの中から、今設計を進めてきてございます。危機管理、災害に対する面からも、建物の構造や部材に関しても、一番は入院患者を守ると、こういうことを優先として、非常用発電とか、他の設備についても、一応基準としている72時間使用可能なものを基準として、今設計を進めている状況でございます。以上です。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 当然今も消防計画、それから事業継続計画、こういうものは作成されていらっしゃるということもお聞きしました。これ、しっかりと継続していただいて、新病院でもこれが生かされるよう、よろしくお願ひしたいと思います。続いてですけれども、新病院は2階建てというようなことを伺っておりますけれども、こういう基礎には、盛土等は今、考えていらっしゃるのでしょうか。その辺についても、お伺いし

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

たいと思います。

●議長(佐藤武雄) 丸山病院事務長。

■病院事務長(丸山茂幸) 現在、基本設計の中で外構、また敷地の外構、また施設の設計を進めている状況でございますが、盛土等に関しましては、敷地全体の雨水排水対策が基準となります。外構の雨水排水の対策の設計の中から、雨水が適正に処理できるよう、今の段階としましては、近隣を流れる柏原用水の方へ流しても、流量が流出できるか等、横断設計等を測量している中で、決めていく段階でございます。盛土に関しましても、それを基準として、できるだけ敷地内の形質の変更はせず、具体的に申しますと、現状維持、やっても切土1メートル、盛土2メートル以内で実施できるよう、今設計を進めているところです。盛土につきましても敷地、建設それぞれ連動して調整が必要になってきますので、今詰めている状況でございます。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 盛土についても2メートル以内ということもありますが、今も調整されているということであれば、しっかりとこの辺についても検討をしていただいて、雨水、そういうものもしっかりと流れるようにしておかないと、後で崩れるというようなことがあったらいけませんので、それをお願いしたいと思います。

それから、家屋調査について、以前にも質問をさせていただいていますが、その後、どのようになったのでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 丸山病院事務長。

■病院事務長(丸山茂幸) 6月、9月のご質問もいただいている中での解体工事における、地域住民の皆様への対応につきましては、前回もお答えさせていただいたのですが、土木工事の施工におきましては、やはり一番は、関連工事の関係者以外の住民の方々の迷惑にならない施工の方法というのが一番なんですけれども、今回の施工に関しましては、やはりもちろん迷惑にならないのが第一なんです、周辺住民への、また事業を実施するにあたっての説明を、ちゃんとしていかなければならないというふうに考えてございます。もちろん粉塵、そのことも環境に関することもそうですし、解体設計の中で今、周辺住民の皆様の家屋に影響が及ぶものであるのかどうかという工事内容につきまして、併せて設計業者と詰めて、方向性を定めている状況でございます。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 周辺の家屋調査ということについては、この解体工事に伴って、どれだけの振動があるのか、実際には解らないわけなんですけれども、そういうものもしっ

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

かりと説明で、住民の皆様のご理解を得るということが大前提だと、私思いますので、家屋調査についても、もしやれるものであれば、これも予算に絡んだり、それから基準がどの辺で考えているのか、そういうものによってはだいぶ変わってくるのではないかと思いますので、しっかりと考えていただければと思います。

それから、旧柏原小学校の周辺のグラウンドにあります高木、けやき等がたくさんありますけれども、この辺の伐採については、どのようになったのでしょうか。実際に、落雷等考えれば、このまま放っておくわけにはいかないはずだと思うのですが、その辺についての見解をお聞かせください。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） 高木、周辺の高い樹木につきましては、来年度、旧柏原小学校の解体工事に併せて、敷地内の工作物、高い樹木も併せて、取り扱いを今、整備をしたところがございます。現状の柏原グラウンドの西側の並木の植栽のことなんですけれども、主にけやきが植栽されてございます。解体工事設計の主要の中におきまして、今設計業者様の方で敷地内の工作物の取り扱いも含めて、調査をしていただいて、調査が終わった段階でございます。その中でも、高い樹木の取り扱いにつきましては、どういう樹木であったのかという部分も知りたいところもありまして、広報しなのに掲載するとか、学校のOBの皆様にご案内するとか、記念樹であるのかどうかという情報提供を呼びかけた経過がございます。その中で、改めて、町内の森林事業者様に、けやき14本の現状について、調査をしていただきました。平成25年に、町の教育委員会の方で、日本樹木医、長野支部におきまして、樹木診断をしていただいた経過がございます。その結果を踏まえて、現状、どうなっているのかということを調査していただきました。確認をしていただきました。結果、かなり切り口から腐食が進んでいる所もあったということで、プラスますます樹高が今後高くなっていくということも踏まえまして、解体工事や建設工事等の支障になる部分につきましては、撤去する方向で今、進めてございます。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 支障になる部分というお話がありましたけれども、すべてではないという考え方でよろしいですか。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） 設計段階において、支障のある部分につきまして、これからどの木が支障になってくるかというのは、判断していく予定でございます。基本的には撤去という方向でございます。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

◆1番(北村富貴夫) 高木に関しては、実際に落雷、緑ヶ丘線については通学路でもあるかと思うので、今後も、そういうものについてはやはり、撤去せざるを得ないのではないかというように考えます。そういうことについても、しっかりと考えていただければと思います。続いて、周辺道路について、住民説明会や全員協議会において、道路の改良について説明がありました。特に緑ヶ丘線については、令和7年度以降になるという説明もありました。先ほどの町長のキャッチフレーズがありますが、住民説明会では、みんなで作るというものではないように感じます。もっと丁寧に、図面も大きな図面でわかりやすく説明したらどうかという意見もいただきました。住民目線、住民本位ではなく、先延ばしではないかと言わざるを得ません。財政が厳しいことは承知しておりますけれども、せつかくの患者さんの拠り所、心の支えになる病院を建設しようとするわけですから、車の往来も増加することも予想されます。道路が狭いままでは事故等も心配されます。高木を伐採した後の除雪等も考えて、傾斜をつくって通学路である緑ヶ丘線や新病院の北側の道路の改良も考えるべきだと思いますけれども、今度の考え方については、どのように考えていますか。ご質問をさせていただきます。

●議長(佐藤武雄) 海口建設水道課長。

■建設水道課長(海口泰幸) 北村議員のご質問について、お答えをさせていただきたいかと思えます。先ほど、議員の方でもおっしゃられましたけれども、周辺道路につきましては、道路の接続ですとか、勾配だとか、そういったことを含める中で、過日の全員協議会の方でも、説明をさせていただきました。重複になりますけれども、その時も、7案ある案件の中から、道路の特徴ですとか、病院計画の影響、周辺環境、経済的なもの、そういったものを検討する中で、より良い案として、選ばせていただいたものにつきまして、地域住民の方々につきましても過日、10月22日、周辺地域の10、11、12、13、14、15、それから18組の住民の方々を対象に、説明会等々もさせていただきました。その中では、急勾配の解消ですとか、雨水の処理、そういった先ほど、議員がおっしゃられた緑ヶ丘線の整備等々も含めて、貴重なご意見等もいただきましたので、その辺のところの安全性を確保できるように、病院の担当とも調整をする中で、事業を進めていきたいと考えております。当面につきましては、事業の方の進捗を滞らせないために、柏原の小前線の方を、先に着手させていただきました。7年度以降、先ほど議員おっしゃられたように、緑ヶ丘線の方につきましても、当然通学路もございまして、その安全確保を兼ねての改良の方を念頭に置く中で、進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 今、建設水道課長の方から、安全性を確保して、色々と対応をしていくというお話をいただきましたけれども、実際に、令和7年度以降という説明をいただいております。今後、実際にやっつけようとしている除雪とかも、あそこでは大変

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

狭い、今でも大変狭く、大変な道路ではないかなと思っているんですけども、それについては、どういうふうにお考えなのでしょう。除雪のことについて、含めてお願いいたします。

●議長（佐藤武雄） 海口建設水道課長。

■建設水道課長（海口泰幸） 除雪の関係でございますけれども、実際今、現道につきまして、除雪を進めさせていただいておるわけなんです、今後、そちらの方の道路改良等々も含まれた場合につきましては、当然その所の通行量も増えますので、計画の中で、病院の方の計画の部分につきましては、道路改良等々も含める中での確保、またはお願いをする中で、除雪も支障のないように進めていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 除雪も支障のないようにぜひ、進めていただきたいということ、先ほどの話の中に、令和7年度以降ということですから、今の現状では、そのままあまり変わらないと考えてよろしいでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 海口建設水道課長。

■建設水道課長（海口泰幸） すべて、同時に施行できればよろしいんですけども、最終的に、とにかく病院の開設前に、道路として機能しなければいけない小前線の方を優先する考えがございますので、そちらの方につきましては、本当は同時にできればよろしいんですけども、小前線の後の工事になるかと、現の段階では考えております。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 優先は小前線だと思うんですけども、しかし、今後も必要なことを考えながらやっていただければと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

続いて、オンライン診療についてですけども、危機管理上、オンライン診療ということも考えなければいけないのではないかと、私思うんですが、雪の高速道路や通行止めや、山の中での災害、そんなことも想定されていく中で、このオンライン診療については、大変有効な手段ではないかと思うんですが、その辺については、いかがでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） オンライン診療についての考え方なんです、スマートフォンや、その他のタブレットなどを使って、またインターネット上で、それを、診療、治

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

療を行う方法としてのオンライン診療ということなのですが、令和2年度に信越病院の再整備事業基本計画、構想計画の中において、安心して医療を受けられる環境づくりということが掲げられております。その中で、具体的に院内のWi-Fiの整備を行い、感染対策として、オンライン面会やオンライン診療に向けた整備が必要じゃないかということが明記されてございます。設計段階におきましても、それを踏まえて将来対応できるように、具体的には診療の場所にWi-Fi環境の整備をしていくということで今、方向を定めています。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 新病院に将来、そういうものができるような体制づくり、これは大変重要なことだと思います。やはり山中、山の中ですとか、高速道路が本当に通行止めになった時に対応ができない、そこへ行けないという時に、電波等が通じれば、そういう対応が可能になってきますので、オンライン診療については、今後ぜひ、安心して医療を受けられるような体制づくりの中に入れていただければと思います。それから、内科等、診療科を今後、どのような考え方でいらっしゃるのか、ちょっとお伺いしたいのですが、全体の流れの中で、教えていただければと思います。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） これは、基本構想の中で、現在の診療科を継続していくというようになってございます。設計の段階におきましても、基本構想どおり、外来の診療につきましても、継続できるようなかたちの諸室を今、設計段階で計画してございます。他に、今、院内で診療できない外部の病院の医師等に来ていただいて、診療している部分につきましても、継続できるようなかたちで、外来の諸室の方等を検討している状況でございます。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 夜間等、小児科の夜間の診療等も、これも大丈夫だということでよろしいでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） 現在、小児科におきましても、当信越病院の方で、現状は診察してございますが、現在は夜間、小児科の先生、小児科の診療として、特に枠を設けている状況ではございません。今後、小児科の受診につきましても、町内のお子様は減ってきている状況ではございますが、小児科の診療科自体も継続して、新病院につきましても診療科は設ける予定ではございます。以上です。

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 実際に子育てをされる皆さんが安心できるような診療体制、しっかりと対応していただければと思います。身近で信頼され、愛される病院を目指しているわけですから、町民の安全、安心を考えるべきだと思います。まだまだ質問したいことございますけれども、後ほど、同僚議員も質問されるようですので、続いて、次の質問に移ります。

9月議会において、森林整備状況について、質問させていただきました。森林経営管理制度について、進捗状況はどのようになっているか、お伺いいたします。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 9月議会でもご質問いただいたところです。現在、森林所有者による施業が困難な森林を中心に、移行調査の対象森林を抽出するというところで、その前段といたしまして、区域選定のための予備調査ということで、森林整備のプランニングマップというものを今、まだ制作中でございます。こちらにつきましては、年明けには完成の見込みですので、その地図ができ次第、移行調査の区域を選定して、年度内に調査を開始する予定でございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） プランニングマップを、これから作成されるということでございます。これは、早めに作成していただいて、今年度は20ヘクタールの移行調査を予定しているということを、9月議会の時に回答をいただきました。その後、変更等ございませんか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） その予定で今、プランと言うか、調査の方をやるように進めているところでございます。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 20ヘクタール、場所等も今、検討されていると思いますけれども、しっかりと今後やっていただければと思います。

続いて、水源についての質問をさせていただきます。国有林の中の2カ所の水源を、実際に私も足を運びました。道もだいぶ荒れていました。特に高沢地区の鬼の釜水源では猿も出没していました。獣等への対策として、この大事な水源なんですが、フェンス等の考えはあるのでしょうか。その辺について、お伺いします。

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

●議長（佐藤武雄） 海口建設水道課長。

■建設水道課長（海口泰幸） 議員の質問でございますけれども、私も11月22日に職員を連れて、現状の方の確認をしてきております。それで、こちらの方の鬼の釜水源につきましては、水道水源保護条例で制定されている、こちらの地域になっておりまして、こちらの方については、地域の指定にされている部分については、民地でございます。よって、こちらの方に柵等々の、外部から物が入らないようにというような内容で、議員さん、たぶんおっしゃっていらっしゃると思うんですけども、町の方で、民地に勝手にそういった柵等々は、設置はできませんので、この部分については、現状のままの維持というかたちで、進めさせていただきたいというふうに考えております。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 実際に、鬼の釜水源に行ってみますと、荒れていましたし、獣もだいぶ出没している跡もありました。こういう役場の職員の皆さんも限りがありまして、やはりそういうボランティアの皆さんでまず、山道を整備するとか、行く道ですね、そういうことも考えていただければと思います。フェンス等は、やはり民地だから厳しいと言われれば、それまでですけども、やはり水源というような、町民の命を守る、山を守る、自然の恵みを守る、大切なものだと思います。水神さんも、祠もありました。水源からそういうものも、大変大事なものだと思います。それから、水源から来ている管が、石綿管と聞いていますけれども、今後どのように変更されていくのかどうか、その辺についても、お伺いします。

●議長（佐藤武雄） 海口建設水道課長。

■建設水道課長（海口泰幸） こちらの方の水源につきましては、現在、黒姫の方の弘法清水等々から引いてきている水源の水量が、余裕がございますので、そちらの方を各部署に回したりしております。鬼の釜水源の方の石綿管のお話をされましたけれども、だいぶ痛んではきていると思うんですけども、そこまでの所を改修等々するにつきましては、大変な労力のみならず、資金的なものもかかりますので、現在につきましては、水源として確保はするものの、新しい管を、現在そこに入れ替えるかたちの中では、すぐには考えておりません。水源を大切にするというかたちの中で、こちらの方につきましては、水源保護条例をきっちり守って、進めていきたいと思うんですけども、その辺のところにつきましては、変な話ですけども、人口減少等々もありますので、規模の縮小化もある程度は考えなきゃいけない部分もありますので、ただ、水源は常に確保するというような体制の中で、進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

◆1番(北村富貴夫) 水源を確保していくということは、大変重要なことだと思います。水源の保護条例の中で、実際にはなかなか難しいのかなと思うのと、もう1点は予算が絡むことと、それから少子高齢化の中で、こういうものをしていくというのは、大変厳しいのかなというのは感じますけれども、やはり、安全、安心ということを考えると、どこかでこれをやはり、新しい管に替えるということも必要になってくるのではないかと思います。こういうものについても、しっかりと管理をお願いしたいと思います。

続いてですけれども、黒姫山、斑尾など、登山道の整備についてお伺いします。黒姫山は日本200名山と言われています。隣の戸隠や高妻、火打、妙高は日本100名山と言われ、登山者も多く感じます。火打山に登ると、登山道が階段等で作り、しっかりと整備されています。コロナ禍で登山する人、信濃町の大自然を楽しむ人が多く感じますが、獣道もあり、登山道がだいぶ傷んでいる所もあります。こういう登山道や遊歩道の整備状況について、お伺いします。

●議長(佐藤武雄) 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長(佐藤巳希夫) 登山道の整備状況ということで、ご質問でございますが、登山道、遊歩道の整備につきましては、維持管理を中心に、主に倒木処理、草刈り等を実施しております。現在、ガイド、トレーナーさん等々、連携する中で、できるだけ自然の形を自然のまま、必要最小限に残すということを基本に、基本的な方針として、整備を進めているところでございます。遊歩道等につきましても、同じように維持管理、整備等を行っているところです。以上です。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 黒姫山には、過去に、森林の中でトロッコ線がたくさんあるわけです。そういうような所を整備して遊歩道にしたらと思うようなところは、いかがでしょうか。実際に、ホームページ等を見させていただくと、その中に、レールがまだ残っている、結局トロッコ線があるわけですから、そういうものがまだ残っているような所もあります。そういうものも遊歩道として整備したらと思うところですが、その辺についてはどうでしょう。

●議長(佐藤武雄) 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長(佐藤巳希夫) 大変良いご提案だなとは思いますが、現在の登山道、既設のものを整備していくのも、かなり、人的な問題、それから予算的なもの、場所が場所で、なかなかすぐにアプローチできない等ございますので、なかなか新しいものをつくっていくというのは、ちょっとむずかしいような状況かというふうに考えます。以上です。

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 実際にはむずかしいのかもしれませんが、こういうこともちょっと考えていただければと思います。特に、遊歩道では、黒姫スキー場から苗名滝に通じる遊歩道、それから野尻湖周辺の遊歩道等の、こういう所が大変観光客も来るのではないかと思うところではございますけれども、そういう所の整備状況はどうでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 遊歩道で、癒しの森コースに指定している遊歩道につきましては、ひとときの会の皆さん等、ボランティア等でいろいろ現地の維持管理の作業等を、ご協力をいただきながら、維持管理を進めているところでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 維持管理、これ大変なことだと思うんですけど、町の観光対策にも大変有効だというふうに考えています。大自然を満喫したい人が多いのではないかと、そういうものを積極的に整備していけばいいかなと思います。先ほども申し上げましたが、こういう色々な道が荒れている所を、やはりボランティア、そういう人たちに整備を一緒になって考えていただけるような、そういう力を借りるという考え方については、どのように考えていらっしゃるか、お聞かせいただければと思います。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 現状の遊歩道につきましては、大学生がボランティアでおみえいただいて作業していただいたりとか、やっているところです。ただ、登山道となりますと、なかなか作業もアプローチもハードなりますので、安全等を重視して、現状では、ボランティア作業については、計画はございません。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 実際に、ボランティアでもやってもいいのではないかと思う人がいるかもしれませんので、そういうことについても、ぜひ検討をして頂きたいと思います。こういう登山道などで遭難する、そんなようなことは、実際に登っていく人は、まさか遭難するなんて思っていないわけです。やはり登山者にも安全で、安心の登山を楽しんでもらうように考えるべきではないかと思います。この辺については、登山道の整備、しっかりとお願いしたいと思います。

最後の質問になります。引きこもり対策について、お伺いしたいと思います。2018年

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

の内閣府の調査で、中高年の引きこもり状態にある人が全国で61万3000人いるとの推定結果が出ています。この内、引きこもりが5年以上の長期に渡っている人が、半数だったという結果も出ています。平成27年度に実施した満15才から満39才の方を対象にした調査でも、人口の1.57パーセント、54万1000人の引きこもりの状態があると推計されております。どの年齢層でもみられる傾向があるという結果が出ております。あくまでも内閣府の調査ですけれども、しかしこれは大変むずかしい問題と捉えています。個人情報でもありますし、引きこもりと認定することもできません。就職相談や悩み相談など、将来町の財政を圧迫しかねない、こういう引きこもり対策は、一生重視する必要があると考えています。町では、こういう引きこもりの対策について、どのように考えていらっしゃるのかどうか、お伺いしたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長(柄澤 豊) 引きこもり対策でございますけれども、厚生労働省では、仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、6ヵ月以上続けて自宅に引きこもっている状態を引きこもりというふうに定義をしております。今ほど、議員さんの方から実態調査の関係のお話もございましたけれども、私どもの方で把握しておりますのは、当町内の実態の把握、それから支援対策に関して、令和元年に厚生労働省の実態調査が実施をしまして、当時、民生委員の方のご協力を得て、調査をした経過がございます。ただ、ここで注意すべき点でございますが、この引きこもりについては、大変繊細な問題であるということございまして、当事者または家族からのお申し出がある場合はいいんですけれども、ほとんどの場合、そのようなことはなく、新規の把握については、近所のお住まいの方からの情報であるとか、そういったものを元に町の保健師や民生委員の声掛けによって、調査を行っている、対応をしているというところでございます。引きこもりの情報をいただいたので、そのつもりで対応をしようとしたところ、その方は、引きこもりではなかったとか、そういった周囲の誤解であるというケースも多々あるわけでございます。当町の支援の体制についてですけれども、引きこもりに対する特別な専門窓口は、設置はしてございませんけれども、生活支援等、多方面に渡る総合的な相談窓口が、私ども住民福祉課になりますので、従前から外部の機関も含め、関係する部署の連携により相談支援を実施をしているところでございます。具体的には、住民福祉課の福祉係、保健予防係、教育委員会の子ども支援係もご協力を頂く中で、あとは民生委員会ですとか、社会福祉協議会、県、まいさぼ信州長野さん等と連携をしまして、情報を共有し、そういった方が、支援の網から漏れないように、対応をしてみたいと考えてございます。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 町の対策も大変だと思いますけれども、やはり個人情報、それから先ほど、大変繊細という言葉出ましたけれども、私もデリケートな問題だと思ってお

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

ります。こういうものも対策として我々、町がしっかりとやっていないと、相談窓口の充実、こういうものは大変重要ではないかと思っています。色々な方面から声をかけたり、それから窓口を充実させていますよ、というようなアピール、そういうことも必要ではないかと思います。広報しなの等を活用して色々なものもやっていただければと思います。以上で、引きこもりについての質問を、終わらせていただきます。すべて、今回の質問については終了です。以上です。ありがとうございました。

- 議長（佐藤武雄） 以上で、北村富貴夫議員の一般質問を終わります。この際、10時50分まで暫時休憩といたします。

(終了 午前10時35分)